

社寺・社寺林の社会環境分析

千葉工業大学 学生会員 ○川島美由紀

千葉工業大学 フェロー 五明美智男

1. はじめに

社寺林とは、神社・寺院（以下、社寺）の境内に社殿・拝殿・参道を囲むように立つ樹木であり、“鎮守の森”、“社叢”などとも呼ばれる。また、社寺林には古木が多く、生態的、地域環境的にも貴重な場が提供されており、地域のランドマークや地域住民が寄りあう場所になっていることが多い。しかし、現在では周辺の土地開発や道路などのインフラ整備などの進展により、かつて見られていた社寺林と地域住民とのつながりが弱まるとともに、関心が薄れてきていることが懸念される。本研究では、生活に重要な“水”をキーワードとして、水と農業に関わりが深い福島県会津地域に着目し、地域開発と集落、社寺・社寺林の関係性、社寺と地域、周辺住民のつながりを調査し、地域環境における社寺林および社寺の価値を再確認することを目的とした。

2. 研究方法

(1)社寺の分布図作成：福島県会津地域（会津若松市，河沼郡湯川村，喜多方市）の神社・寺院分布図を参考資料のHP¹⁾を参考に Google Earth，ArcGIS により作成した。

(2)集落・社寺林の分類模式図：福島県会津地域に加え、

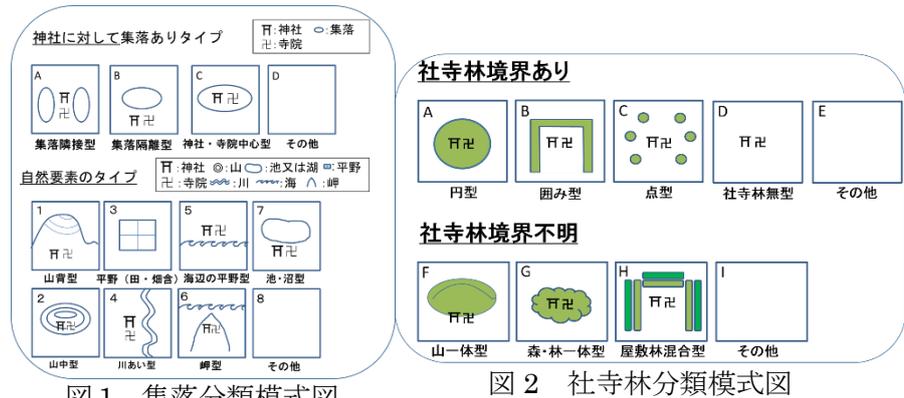


図1 集落分類模式図

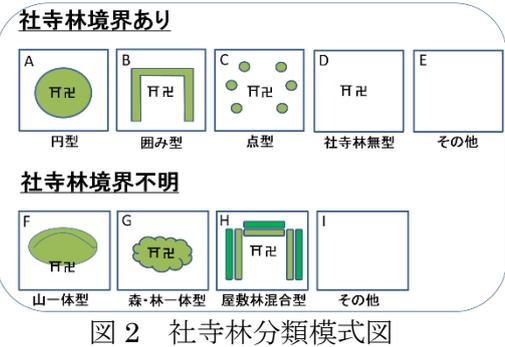


図2 社寺林分類模式図

県の4面を水域に接している千葉県について、社寺林に関連する主な環境要因を抽出し、集落のタイプと混合させた集落分類模式図、各社寺の社寺林の類型を表した社寺林模式図を作成した。集落分類模式図においては、上田（2007）²⁾の神社の位置の分類として提示された神社配置図を参考にして、社寺に対する集落の有無、集落との接続性、位置関係を図化した。（図1，図2）

(3)現地調査：水田が広がり内陸の盆地である福島県会津地域を調査場所として選定した。水田地域に建設された会津縦貫北道路（以下、縦貫道）の近隣地域を対象とし、地域開発によって社寺と集落間を分断しているのではないかと仮説のもと、調査地を選定した。縦貫道は喜多方市，河沼郡湯川村，会津若松市を通る国道121号，会津縦貫北道路（湯川南IC～会津若松北IC間）延長3.0kmが平成27年に開通した。主な整備効果として新たな雇用創出やスムーズな移動確保による観光復興支援，迅速・安定した救急搬送ルートの確保など効果があげられる。この縦貫道沿いの社寺（春日神社，八幡神社，赤城神社，諏訪神社，菅原神社，西教寺（来光寺），稲荷神社，稲荷神社，長福寺，菅原神社，大光寺，多賀神社，三嶋神社，諏訪神社，菅原神社，白鬚神社）16ヶ所と縦貫道と離れ，異なる自然要素タイプとなる3ヶ所の神社の調査を行った。

(4)写真撮影：社寺林の外観，社殿を含む社寺林内の様子，周辺環境等を撮影した。社寺林の主要構成種確認を行うとともに，建造経緯を示す灯籠・鳥居等の碑文，刻字を読み取り社寺の創建情報の把握等を行った。

(5)社寺林面積・敷地面積測定：GPS（GARMIN eTrex30(GARMIN 製)を用い，対象とする神社の敷地の外周を歩くとともに，Google Earth Pro（航空上）の定規（ポリゴン）機能を使用して神社の外周を測定し，双方の確認比較を行いながら，社寺林面積及び敷地面積を測定した。

(6)樹高・胸高直径：レーザー測定器(LASSER 550A S(ニコンビジョン製)を用いて，神社の特徴となる社寺林

キーワード 社寺林 社会環境 神社 寺院 会津縦貫北道路

連絡先 〒275-8588 千葉県習志野市津田沼 2-17-1（千葉工業大学 生命環境科学科）

TEL：047-478-0452 E-mail：michio.gomyo@p.chibakoudai.jp

の樹高及び30m巻き尺を使用して胸高直径を計測した。

(7)ヒアリング：調査を行った19ヶ所の社寺に関わりがあると考えられる周辺集落にて、ヒアリングを実施した。

3. 結果・考察

(1)会津地域の社寺分布：喜多方市、河沼郡湯川村、会津若松市の社寺総数は476件(社・山)であった。会津地域の多数の神社・寺院は、盆地内の水田地帯に多く分布している。また、磐梯山・奥羽山脈、会津高原と呼ばれる山間地、越後山脈、飯盛山地に囲まれている谷合・谷奥にも社寺が存在している。盆地内の社寺は自然要素の平野が多いと考えられ、谷合・谷奥に見られる社寺は山背や山中が多く、山そのものがご神体になっていることも考えられる。

(2)模式図分類結果及び社寺林面積・敷地面積：作成した2つの模式図より分類を行った。集落分類では、C3タイプ(神社・寺院中心型+平野)、次いでB3(集落隔離型+平野)タイプが多く、盆地地形の自然要素である平野との関連性が高いことが分かる。社寺林分類ではB(囲み型)タイプが多く、次いでA(円型)タイプが多い結果となった。社寺林面積および敷地面積では春日神社、八幡神社、菅原神社を除いた他の社寺は敷地面積と社寺林面積の比が異なっているが、上記の社寺の比が1:1になっており、いずれも社寺林分類タイプではAの円型に当てはまる。社寺林面積が1000㎡を越えている春日神社、八幡神社、稲荷神社、大光寺は生物種の生息場としての可能性も持ち、多様な生物種の保存を可能とする場²⁾のひとつとして考えられる。

(3)調査・写真データ分析とヒアリング：縦貫道による影響が懸念された社寺林の道路下には、写真1のような道路が存在し、氏子とのつながりや、アクセスは分断されていなかった。しかし、縦貫道ができたことにより、田畑が広がる盆地が特徴的な会津地域の“景観”を遮断していることがわかった。一面に壁ができて圧迫感があるといった意見など景観の悪化を訴える声が聞かれた。社寺林内の燈籠や石碑には、“村内安全”、“五穀豊穡”が刻字されており、年号が



写真1 景観を遮断する縦貫道

享保のものから平成25年に金婚式で献灯されたと思われるものまでみられ、稲作に特色をもつ会津地域では氏子が稲作の豊穡を願って建立、管理しているものが多く見受けられた。調査を行った山中・山背を除いた会津地域の社寺林全体の主要構成種は、常緑針葉樹のスギやヒノキ、次いで落葉広葉樹のサクラやイチョウであった。サクラは赤城神社を除いたすべての社寺でみられた。サクラは穀霊を迎える依代一穀霊のこもる花とし、花見は農民が稲作農事のように協同作業をする仕事仲間が、協力を誓いあうための場³⁾であった。これより、農耕生活のうえに関与する大切な花であるといえ、稲作農業が特徴的な会津地域の社寺に多く見られたと考えられる。

4. まとめ

本研究では福島県会津地域にまたがる会津縦貫北道路が集落と社寺・社寺林間の繋がりや会津地域の社寺の特徴について調査を行った。縦貫道には県道が存在し、氏子やアクセスとの直接的な繋がりや切れてはいなかったが、集落、社寺・社寺林間との“景観”を遮断し一面に広がる田畑が作り出す盆地の景観さえも道路が作り出す壁によってなくなっていた。また、社寺林は針葉樹が多く植生し、囲み型の社寺林タイプが多くみられた。また、発表時には千葉県内房域の社寺を対象として漁業との繋がりやを調べた結果、考察についても言及する予定である。

参考文献

- 1)八百万の神 日本の神社・寺院検索サイト, <https://yaokami.jp/>
- 2)上田篤 (2007) : 鎮守の森, 鹿島出版社, p.65, p.64, p.191.
- 3)鳥越皓之 (1999) : 景観の創造, 昭和堂, p.14, p.15.